

平成27年度「家庭の日」に関する作文・図画 入賞作品集

毎月第3日曜日は「家庭の日」



はじめに

＝毎月第3日曜日は「家庭の日」＝

これは、昭和41年12月7日に青少年育成広島県民会議が結成され、初めて取り組んだ事業です。この要綱の趣旨に「心身ともにすこやかな青少年が育つためには、家庭環境が基礎となる。家族団らんのための家庭の日を定め家族全員が意志の疎通と感情の融和をはかり、円満で愛情にみちた家庭をつくろうとするものである。」と書かれています。

この「家庭の日」事業の趣旨に沿った作文募集は、青少年育成広島県民会議結成10周年記念事業として始められ、のちに図画を加えて、今年で39年目を迎えます。

本年度も県内の小・中学生を対象に募集しており、小学校70校、中学校43校から作文・図画を合わせて2,397作品の応募がありました。

これら応募作品の中から事前審査を通過した作文30作品、図画316作品を厳正に審査した結果、特選作文3作品、特選図画1作品、入選作文21作品、入選図画5作品を決定しました。

特選者には、10月31日（土）に開催した「青少年育成県民運動推進大会」において、広島県知事から賞状及び賞品・副賞が授与されました。

この作文集は、毎月第3日曜日にこだわることなく日常生活において、親に感謝している心や家族と自分とのかかわり方で感動したことなど、自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。多くの皆様にご覧いただき、家族や家庭について見直し、一緒に話し合うきっかけとなれば幸いです。

終わりに、この事業の実施に当たり、ご協賛いただいた県内の13ロータリークラブ、また、ご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

公益社団法人 青少年育成広島県民会議
会 長 上 田 宗 岡

目 次

特選（広島県知事賞）

●作文の部

広島大学附属三原小学校	1年	野間大生樹	ぼくのたからもの	1
呉市立宮原小学校	6年	中 あやの	明日は明日の風が吹く	2
大竹市立玖波中学校	3年	藤村 嘉希	マイファミリー	3

●図画の部

東広島市立寺西小学校	5年	塩竹七海人	おいしいチャーハン出来たよ	23
------------	----	-------	---------------	----

入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

●作文の部

広島市立牛田小学校	1年	溝口さくら	わたしのかぞく	4
広島市立幟町小学校	2年	吉岡万結子	もとの父さんにもどって	5
広島市立緑井小学校	2年	木村 文音	土しゃさいがいから1年たって	6
広島市立緑井小学校	3年	武田悠一郎	なな子ちゃんが生まれたよ	7
福山市立御幸小学校	4年	山下裕芽葉	2人のお姉ちゃんと私	8
東広島市立寺西小学校	4年	瀬戸結依香	つながる命	9
東広島市立三ツ城小学校	4年	高松 大希	家族がそろっていいな	10
広島市立高須小学校	5年	中井美咲希	家族と私の役割	11
広島市立高須小学校	6年	後藤 すず	休日と家族	12
熊野町立熊野第一小学校	6年	神鳥 友里	蜂対策本部発足！！	13
広島市立宇品中学校	1年	小藤田未来	(本人の希望により掲載を辞退されました)	
東広島市立西条中学校	1年	松丸 拓馬	家族で団結	14
廿日市市立阿品台中学校	1年	大村 航平	6人家族	15
坂町立坂中学校	1年	西川 瑠菜	大切な言葉	16
広島市立牛田中学校	2年	西村 瑠菜	(本人の希望により掲載を辞退されました)	
広島市立東原中学校	2年	柳川 知香	我が道を歩いた祖父	17
呉市立片山中学校	2年	井上 莉花	私たちだけじゃない	18
東広島市立西条中学校	2年	小宮山 周	反抗期をこえて	19
広島市立牛田中学校	3年	嘉藤 寛太	自分の最大の理解者	20
広島市立楠那中学校	3年	松本 千春	大好きな家族のみんなとともに	21
東広島市立磯松中学校	3年	常森 翔聖	介護士の母から学んだこと	22

●図画の部

広島市立吉島小学校	1年	津川ほの香	お父さんが休みの日は家族みんなで夕食嬉しいな	24
庄原市立口北小学校	1年	若林 朋歩	畑でとれた野菜を使ってピザを作りました	24
広島市立宇品小学校	4年	神垣 天翔	体と言葉が不自由なおじいちゃんと勝負!	24
広島市立吉島東小学校	6年	土井 岳人	家族でお墓参りに行きました	24
東広島市立入野小学校	6年	迫田 大和	家族でキャンプに行きバーベキューをしたよ	24

審査会から	25
-------	----

平成27年度「家庭の日」作文・図画募集要項	26
-----------------------	----

審査員名簿及び審査要領	27
-------------	----

平成27年度応募校一覧	28
-------------	----

青少年育成の基本指針	30
------------	----

特選

ぼくのたからもの

広島大学附属三原小学校

1年 野間 大生樹

あるひとつぜんぼくのでんごくのようなせいかつはおわった。ぼくが3さいのときだ。「ほまくんは、おとうとともうと、どっちがいい」とははがきいた。ぼくはしょうじきどちらもいらないとおもった。そしてぼくのしんぞうはドキドキしはじめた。「おなかのあかちゃんはやさしいのだろうか、それともたたいたりするのだろうか。ぼくのおもちゃやおかしをとっちゃうのだろうか。なかよくあそべるだろうか」あたまのなかでいろいろなかんがえがぐるぐるまわった でもいつもたどりつくかんがえはきまっている。「あかちゃんなんて、いない。」

それからすこししてげんきだったははが、かいしゃをおやすみしなければならなくなった。おいしゃさんにいわれたからだ。じつはぼくをうむまえに、ははは、あかちゃんがおなかのなかでしんでしまったことがある。こんかいはそんなことがあってはいけないので「あんせいにするように」とのことだ。あんなにおこるとこわかったははがふとんとずっとしんどそうにねている。とてもちいさく、よわくみえた。おなかが「きゅー」っといたくてちがでてしんどいと、ははは、いっていた。きぶんもわるいみたいでまいにちごはんもあまりたべず、たべたとおもったら「おえー」っとトイレからこえがきこえた。はいていた。とてもしんどそうだった。かぞくみんなでしんぱいし、みんなでささえた。そんなかわいそうなははをみていると、ぼくのきもちはだんだんかわりはじめた。からだのなかにあたらしいのちができて、そだてるということはからだをはったいちだいじ。おなかのあかちゃんもいっしょうけんめい、いきよう、おおきくなろうとがんばっている。なんだかぼくもそのがんばるきもちをおうえんしたくなった。それからぼくはおなかのあかちゃんにはなしかけるようになった。「トントン、おにいちゃんですよ」おなかのなかから「トントン」おなじかずだけかえしてくる。なんともいえないふしぎなおどろきとあかちゃんとはなしができた、つうじあえたというよろこびにからだじゅうがつつまれた。

3がつ24にち、ごぜん2じ。とつぜんぼくはおこされた。あかちゃんからおなかのそとへでたいというサインがでたからだ。ごぜん6じ33ぶん。「のまさーん」とよばれた。ついにいもうとがうまれた。ぼくは、ふだんこどもがはいれないへやへとくべつにとおしてもらい、うまれたばかりのいもうとにあった。いもうとは、ちまみれで、りょうてをグーにしてねていた。とてもちいさくてかわいかった。おなかにいるときからなんどもはなしをしてきたいもうと。さいしょはあんなにいらないとおもっていたのに、いまはかわいくてしかたがない。

あれから2ねん5かげつ。ぼくは6さいでいもうとは2さいになった。だけど、いもうとのたんじょうはいまでもはっきりおぼえている。ははがからだをはってまもったいのち。かぞくぜんいんでささえたいのち。いのちのたいせつさをまなばせてくれたいもうと、ぶじうまれてきてくれて、ほんとうにありがとう。ぼくのいっしょうのたからものだよ。

「今は病気を治すことが優先です。ストレスがたまる事や運動は、できるだけさけるようにして下さい。」

この言葉を医者から告げられたしゅん間、私のほほに涙が伝った。

「いつになったらこの病気は治るの？私はいつになったら運動をまたできるようになるの？だれか私を助けてよ・・・。」

私は5年生の秋から重い病気にかかった。それっきり、大好きだった陸上の習い事をやめ、走る事も禁じられた。学校に行く事もできず、友達と同じ生活をする事ができなくなっていた。だれに助けを求めても、自分のつらさは変わることはなかった。

病気になってから毎日ねたきりで、立ち上がるとすぐたおれるほどの頭つうと目まいにおそわれた。でもそんな私のそばに、いつもお姉ちゃんが居てくれた。5才も年上で高校の勉強が忙しいのに、自分の勉強時間を私との時間にかけてくれていた。となりでずっと私をはげましてくれて、話し相手にもなってくれた。私はお姉ちゃんがそばに居てくれたから、少しずつ体も心も回復していった。

「おはよう。」

久しぶりに学校に行くことができた。友達にも会えて、やっと皆と同じ生活ができるようになったと思ひ、嬉しかった。でも、給食の前にまた体調が悪くなり、最後まで授業を受ける事ができなかった。

「結局最後まで授業受けられなかった。久しぶりに学校に行けたのに。もう少しで最後まで学校に居れたのに・・・。」

帰宅後、今日の出来事をお姉ちゃんに話した。友達と同じ生活ができない自分が情けなかった。

「すごい！給食の時まで学校に居れたの？本当に良くがんばったね。偉いよ。」

「え？」

私はお姉ちゃんの言葉に耳を疑った。

「すごい？何で？」

私は聞き返した。

「あやの、久しぶりに学校に行けただけでもすごいんだよ。だから、明日は明日の風が吹くんだよ。

今日とはちがう風がね。明日はきっと、最後まで学校に居れるよ。」

泣いている私を、ぎゅっとだきしめてくれた。「なんて温かい言葉なんだろう。」私はお姉ちゃんの温もりを感じた。

「1週間学校に通えたー！」

私は1週間、早退をしながらでも学校に通うことができた。

「今日はお祝いだね。ドライブ行く？」

お姉ちゃんが笑いながら言った。

「うん。行く。」

私はお姉ちゃんの自転車の後ろにまたがった。

「出発ー！」

家の回りをぐるぐるドライブした。久しぶりに風に乗れた気がした。

「走ってるみたいだなあ。」

私は嬉し涙をこぼした。陸上をしていたころの元気な自分に戻れた気がしたのだ。

「あやの、学校どう？楽しい？」

お姉ちゃんが私を心配するように言った。

「とても楽しいよ。」

私は笑顔で言った。今日のドライブは、元気になる良い薬になった。

私の病気はだんだん回復していった。お姉ちゃんのおかげで、気持ちが楽になり、急に心が晴れ、まほうのように体が良くなっていくことができた。早退の回数も減り、少しずつ体育の授業に参加することもできるようになった。

私の地ごくの日々は今、終わりつつある。「明日は明日の風が吹く。」私はお姉ちゃんが唱えるように言った言葉をむねに、お姉ちゃんと共に、大きなかべをこえる事を、ここに誓います。

特選

マイファミリー

大竹市立玖波中学校

3年 藤村 嘉希

私の小さな家庭の中には、大きな世界が広がっている。

私の父は韓国人、母は日本人だ。そのため、私の家の中には2つの国がつながっており、いつも韓国語と日本語が飛び交っている。ちなみに私は、父と母のことを、アッパ、オンマと呼んでいる。

私は父と母が結婚して8年目に生まれた。なかなか子供に恵まれなくて、両親はとても悩んだそう。母は、普段の生活の中でもよく、「嘉希ちゃん、アッパとオンマのところに生まれてきてくれてありがとう。」と言ってくれる。その度に私は、とてもうれしくなる。「両親の元に生まれてきてよかった。」と私も心から思っている。

私の両親は、一見真面目そうに見えるが、実はとてもユニークだ。いつも家の中では、韓国語と日本語が混ざった昭和のギャグが飛び交っている。その影響を受けて育った私は、昭和のギャグしか知らない。それに、父はたまに、まるで小さな男の子のようなおちゃめな姿を見せてくれる。そんな姿を見ながら、いつも母と私は大笑いしている。私は一人っ子だが、兄弟がいるような気分も味わうことができてうれしい。

さらに、私は悩み事の相談はすべて両親にしている。私は、中学1年生の頃までは、自分の感情を表現するのが苦手ですべて抱えこんでいた。そのため、ストレスがたまりすぎて、憂鬱になっていた時期があった。そのとき母が、「いつもオンマは嘉希ちゃんの味方だから何でも聞いてあげるよ。」と言ってくれた。それまで固く閉ざしていた心の扉が、一度に開いたような気分だった。それからは毎日、その日に感じたいろんなことをすべて母に話すようになった。そうすると、心身共に楽になって、毎日が楽しいと思えるようになった。そのとき改めて、母のあたたかさを感じ、母に対する感謝の思いがわいてきた。最近の家庭には、そのような「あたたかさ」が薄くなってきているのではないかと私は思う。「自分という存在のすべてを認めて、優しい愛で包みこんでくれる存在（親）」との出会いが、子供の人生を大きく変えるはずだと信じている。

また、私たちは家族3人で共通の趣味を持っている。私が3歳になる少し前、両親が中心になって、韓国伝統打楽器演奏（サムルノリ）のグループを結成し、今も活動している。毎週1度皆で集まって練習し、時々日韓友好のイベントに参加することもある。私がまだ小さかった頃は、大人達が練習している側で走り回っているだけだったが、8歳の頃から私も大人に混じって一緒に練習するようになった。たくさんの曲を演奏できるようになるのがとても楽しく、舞台上立って演奏し、観客に喜んでもらうことが私にとっての大きな喜びだ。それに加え、私たちは家族3人でその喜びを分かち合えるので、それがまたうれしい。これからももっと練習して素敵な演奏ができるように頑張りたい。

私には2つの夢がある。それは、父のような人と結婚すること、そして母のような母親になることだ。皆から信頼されている優しい父、厳しいときもあるが優しい笑顔で包みこんでくれる母が私は大好きだ。尊敬する両親であり、時には兄弟のようでもある父と母にいつも感謝している。

これからは、親孝行をして両親に喜んでもらえるように頑張りたい。最後に、アッパ、オンマ、サランヘヨ（大好きよ）。

入選

わたしのかぞく

広島市立牛田小学校

1年 溝口 さくら

わたしはおともだちのばれえのはっぴょうかいのかえりにばんやさんへいきました。

「あしたのあさごはんようにしょくばんをかおう。」と、おやつにりんごのぱんとけしのみがはいったぱんをかおうとばんやさんにはいると、やきたてのぱんのいいかおりがしました。ゆうがただったのでぱんはいつもよりすくなくったです。いつもにこにこなかおではなしかけてくれるおばちゃんがでてきました。わたしは「しょくぱんとりんごのぱんをください。」といいました。するとばんやのおばちゃんがこういいました。「だんなさんとぼっちゃんがちょっとまえにきてしょくばんをかっていきましたよ。」とにこにこがおでおしえてくれました。ぼっちゃんはわたしのおとうとです。わたしはそれをきいてくっくっくとわらってしまいました。あと、わたしのだいすきな「とまととばせりのちーずぱんをください。」といいました。すると、「それもかっていきましたよ。」とにこにこしておしえてくれました。

わたしのおとうさんは、おかあさんがかおうとしていたしょくぱんとわたしがかおうとしていたとまととばせりのちーずぱんをさきにかっていたのです。いつもかっているからわかったのかな？とおもいました。

おなじびにおなじばんをかっていました。おみせをでてわたしはおおわらいしました。かえりみちじてんしゃでおかあさんと「おもしろかったね。」といいながらかえりました。

おうちにつくとぱんがてーぶるのうえにおいてありました。

わたしのおとうとがおおきくなったらおなじばんをくださいというかもしれません。

またばんやさんへいきたいとおもいました。

わたしはおいしいぱんをたべながら、おとうさんにありがとうとおもいました。わたしのすきなぱんをしているおとうさんがだいすきです。おかあさんもすきです。おとうとはすこしすきです。おとうとはおもしろいです。

つぎのあさ、かぞくみんなでじゅんぴをしてたべたさんどいっちは、みんなでおいしいねといつてたくさんたべました。

とってもおいしくていつもにこにこしているいえのちかくのばんやさんをつこうのおともだちにもおしえてあげたいです。

入選

もとの父さんにもどって

広島市立幟町小学校

2年 吉岡 万結子

わたしは、父さんといっしょにすんでいません。なぜかというとなたしがほいくえんのとき、父さんが心とあたまがびょうきになりました。そして、ずっとくすりをのみつづけていました。びょういんの先生から、

「あとはじ分の力でなおしてください。」

といわれました。でも父さんは、まだじ分はびょうきだとおもっていてしごとができません。だからじ分のふるさとに帰っています。

わたしが、3さいぐらいのころは、まだ元気でした。

だからいろいろなところにつれていってくれました。

森をたんけんするイベントに行ったり、とおいショッピングセンターへも、車ですぐつれていってくれました。

おばあちゃんの家へ行くときも、父さんの車だと楽しかったです。でも、今は、バスやでん車にのるので気もちわるくなります。

わたしがねつをだしたときに1日じゅうかんびょうしてくれて、たまごの入ったおかゆをつくってくれました。おいしかったです。

わたしが、ジュースを買ってといったときに母さんは、だめというけど、父さんは、買ってくれてうれしかったです。そのときに、はじめて「ごごのこうちゃ」をのんでおいしいなおもって、そのときからごごのこうちゃがすきになりました。

ガチャをやりたいといったら、やらしてくれました。それに父さんもいっしょに楽しそうにやってくれて、うれしかったです。家のちかくのびじゅつかんでやりました。

いまもそのままでいてほしかったです。だからもとの父さんにもどってほしいです。もとの父さんにもどったらまたかぞく4人で楽しくあそびたいです。

おばあちゃんにきいたらふるさとで少しはしごとをしているそうです。だから家でもはたらけるのではないかとおもいます。

でも父さんは、つかれるから帰りたくないといっています。でもわたしは、みんなといっしょにごはんをたべて、みんなでねたりしたいので帰ってきてほしいです。

母さんも、父さんが、まえのようにちゃんとはたらけなくてもおこらないようにしてほしいです。母さんがおこるから父さんが、帰ってこないのだとおもいます。わたしたちも2人がなかよくできるように、きょうだいげんかをしないで、お手つだいもするようにします。

早くもとの父さんにもどってほしいです。またかぞく4人で楽しくあそびたいです。

入選

土しゃさいがいから1年たって

広島市立緑井小学校

2年 木村文音

土しゃさいがいから今日で1年たちました。

きょ年の8月19日は、夕方から雨がたくさんふり、かみなりもなっていて、わたしはすごくこわかったことをおぼえています。よ中に目がさめてトイレに行ったとき、雨の音がすごくて、まどから外を見ると、うちのうらのはたけが見えませんでした。わたしはびっくりして、お母さんをおこして、

「お母さん、外を見て。家のうらのはたけがないよ。」

と言うと、お母さんが、

「あー、大へんだー。」

と言いました。わたしももう一どよく外を見ると、にわまで土しゃがきていて、よう水ろがあふれているのが見えました。とてもこわいなあと思いました。

そうしていると、お母さんのでん話になりました。わたしのおばからでした。

「家の中に土しゃが入ってきて、1かいは、もう文音がつかくらい土しゃが入ってきて、こわいよ。家のちかくまでこわれた家がながれてきているよ。」

と言っていました。わたしはそれを聞いて、おばに、

「大じょうぶよ。」

と言いました。

それからしばらくは、土しゃをどけたり、おうちをきれいにするのが大へんでした。わたしも土のうぶくろにどろを入れたり、おにわのレンガをあらったりするのを手つだいました。お母さんのおなかには赤ちゃんがいたので、お母さんのぶんまで、わたしががんばりました。あつかったし、とてもおもくて、大へんでした。

それから1年たった今、おばあちゃんのおうちは、やっとすごくきれいになって、おばあちゃんも元のおうちへもどることができました。さいがいの後に見たときは、ぜんぶがどろだらけだったけど、きれいになって、本とうによかったなあと思いました。でも、テーブルやタンス、テレビ、わたしがついていたおもちゃなどがぜんぶなくなってしまってとてもさみしいです。

今日の夕方、ちかくの八しきこうえんで、ろうそくに火をともし、色紙でおりづるをおり、いれいひにおささげしました。土しゃさいがいは、とてもこわくて、大へんでしたが、たいせつなおばあちゃんやおばが生きていてくれて、本とうによかったなあと思いました。家ぞくが、元気でわらっていられることが一ばんしあわせだと思います。

入選

なな子ちゃんが生まれたよ

広島市立緑井小学校

3年 武田 悠一郎

4月21日の朝、お母さんが、

「じんつうがきたー。」

と言いました。ほくは、弟とおばあちゃんと、いそいでタクシーにのり、びょういんへむかいました。家を出る時に、お父さんから、

「お母さんをたのむよ。」

と言われていたので、

「今日は、ほくがお父さんのかわりになって がんばるぞ。」

と決心していました。

びょういんでは、テニスボールで、お母さんのこしをたたいたり、水をのませてあげたり、お手つだいをしました。

「いつ生まれるのかなあ。」

とドキドキしながら待ちました。

ついに、その時がやって来ました。ほくと弟とおばあちゃんが、分べん室に集まりました。ほくは、「どんな子が生まれてくるのだろう。」

と、さっきよりもっとドキドキしていました。

「ふぎーふぎー。」

という泣き声が、分べん室に、ひびきわたりました。赤ちゃんは、

「オギャーオギャー。」

と泣くと思っていたので、とてもびっくりしました。小さくてかわいい、わが家のアイドルのたん生です。

1年前の8月の朝、お母さんが、

「なおくん（弟）も、お兄ちゃんになるよ。」と言いました。それは、お母さんのおなかの中に赤ちゃんが来たということでした。それを聞いてほくは、すぐには信じられなかったけれど、とてもうれしかったです。それから何ヶ月も、お母さんのつわりがつづき、おなかが大きくなっていきました。

お母さんの、つわりや出さんを見て、ほくは、お母さんはすごいなあと思いました。なぜならあんなに大へんなつわりや出さんを3回もしているからです。ほくはお母さんに、「生んでくれてありがとう。」

と言いたくなりました。

妹は、なな子という名前になりました。なな子ちゃんは、つぶらなひとみで、ぷにゅぷにゅほっぺで、にこにこわらって、ほくが想ぞうしていたよりずーっとずーっとかわいかったです。7月には、首がすわりました。こん度は何ができるようになるのか、楽しみです。早く歩けるようになっていっしょに遊びたいです。

お母さんのつわりが終わったころ、

「赤ちゃんが、生まれるところを見たい。」

と、お母さんに聞かれて、ほくは、

「ぜったいに見たい。」

と答えました。すごくお母さんが苦しそうで心配になったけど、なな子のたん生の場面にいられたので、とてもうれしかったです。

なな子ちゃんが大きくなったら、このときの話をしてあげたいです。

福山市立御幸小学校

4年 山下 裕芽葉

私は、お父さん、お母さん、お姉ちゃん2人の5人家族です。1番目のお姉ちゃんは、私と6才はなれて16才。2番目のお姉ちゃんは、4才はなれて14才。私はそのお姉ちゃんたちに対して不まんがありました。今年10才のたん生日をむかえるまでは。

上のお姉ちゃんはもう高校生です。土曜日も日曜日もクラブ活動やじゅくでほとんど家にいません。下のお姉ちゃんも中学校のクラブや友だちとお出かけでいそがしくしています。だから、いっしょに遊んだり、家族そろって旅行に行ったりあまりできません。お姉ちゃんたちは同じ学校に通っているのだから、家でする話は学校の友だちや勉強のことが多く、私はその話題に入れないのです。お姉ちゃんたちは年も近いので仲良しだし、アルバムには2人だけがうつっている写真がたくさんあります。そして、お姉ちゃんは時どき、「裕芽葉が生まれてないころは…」と私の知らないことを話してきます。私はそれが本当にいやで、くやしい気持ちになります。私がお姉ちゃんたちよりも少し早く生まれていたらと何回も思いました。ひとりっ子の方が良かったなとも思っていました。

でも、今年8月1日私のたん生日にその考えが変わりました。たん生日プレゼントに、お母さんが手作りのDVDをくれました。私が生まれてから10年間の写真が音楽に合わせて流れるDVDです。その中の写真には、生まれたばかりの私をだっこして笑っているお姉ちゃんたちがいました。お姉ちゃんたちは、私に絵本を読んでくれたり、歯みがきの仕方を教えてくれていました。そして3人で公園のブランコで遊んだり、遊園地や水族館に行ったり、家族旅行に行つて海で遊んでいる写真もたくさんありました。写真の中でお姉ちゃんたちの真ん中にいつも私がついて、2人が手をつないでくれていました。家族みんなの真ん中で、私はニコニコ笑っていました。

私は、10才になり、今まで自分が大きな考えちがいをしていたことに気づきました。いつもお姉ちゃん2人だけ仲よしで私はさみしいなと思っていたけど私はすごく幸せでした。私がおぼえていないだけで、お姉ちゃんたちは私をずっとかわいがってくれていたし、家族みんなに大切にされて大きくなっていたのです。よくけんかもするけど、やっぱりお姉ちゃんたちがいて良かったです。悲しい時も楽しい時もいっしょにいてくれるお姉ちゃんたちは、私にとって何よりも大切なたから物です。これからは私もお姉ちゃんたちにできるだけやさしくして、今までよりもっともっといっしょに笑ってすごしたいです。



入選

つながる命

東広島市立寺西小学校

4年 瀬戸 結依香

「今年は2人分のお花をお供えせんといけんねえ。」

と私が言うと、お母さんが、

「そうだね。結依香はやさしいね。」

とほめてくれました。私のひいおばあちゃんは、今年の5月に亡くなりました。今までは、ひいおじいちゃん1人がお墓に入っていたけれど、今年は、2人がお墓にねむっています。

私は、ひいおばあちゃんの家は何回も行ったことはあるけれど、そんなにいっぱい話したり、一しょに遊んだりしたことはありません。もう、ひいおばあちゃんは90才を過ぎていたので、私が知っているひいおばあちゃんは、元気いっぱいではありませんでした。でも、遊びに行くと折り紙を折ってくれました。こいのぼりや節分のおになど、細かい部分が多いすごい作品を作ってくれました。それを私にくれて、

「あげるよ。持って帰りんさい。」

とにっこり笑ってくれました。

最後に会ったのは、入院しているときでした。もう元気がなくて、ベットにねたまま、

「よう来たねえ。ありがとね。」

と言ってくれました。病院から帰るとき、お母さんが

「あんなに元気だったのに。お母さんが小さいころは、いっぱいかわいがってもらったんだよ。」

と言って泣いていました。その時私は、

「そっかあ。私がおじいちゃんやおばあちゃんを大好きなように、お母さんもおばあちゃんといっぱい思い出があって大好きなんだ。」と気づきました。私は、おじいちゃんとおばあちゃんが好きです。お母さんがお仕事でいそがしいので、学校から帰るとおじいちゃん達とすごします。いっしょにご飯を食べたり、花火をしたり小さいころからの思い出がたくさんあります。きっとお母さんも、ひいおばあちゃんに会って、楽しかったことやうれしかったことを思い出してなみだが出たんだと思いました。

ひいおばあちゃんのおそう式の日、おじいちゃんも泣いていました。おじいちゃんにとって、大切なお母さんだったんだなあと思いました。ひいおばあちゃんがいたからおじいちゃんがいる、お母さんがいて、今私が生きているんだなあと思うと、ひいおばあちゃんから命を分けてもらったような気がしました。家族はみんなつながっているんだなあと感じました。だから

「ひいおばあちゃんありがと。」

と思いながらおいのりしました。

私はおぼんにお墓まいりをするときに、たくさん花を持っていきました。お墓の後ろを見ると、ひいおばあちゃんの名前がほってありました。ひいおばあちゃんが本当にいなくなったんだと思って、さみしくなりました。私は、手を合わせて、

「大好きだよ。命をくれてありがと。見守っていてね。」

と心の中で言いました。私はこれからも命を大切にしていきたいと思います。

入選

家族がそろっていいな

東広島市立三ツ城小学校

4年 高松大希

ぼくの家族は、お父さん、お母さん、妹、ぼくの4人家族です。

お父さんは警察官で、ぼくたち家族のためにはもちろん、地いきの方のためにも、一生けん命働いているがんばりやさんです。お母さんは、よくおこるけど、おいしい料理を作ってくれたり勉強をみてくれたりするやさしい人です。妹は、保育園の年長で、おままごとが好きな元気な女の子です。ぼくとも、よく一緒に遊びます。そんなぼくたち家族は、ほとんど毎日ご飯を一緒に食べて、その日あったこととお話するなかよし家族です。

でも、今年4月から、お父さんが仕事の都合で単身ふにんとなり、はなればなれでくらすことになりました。

今までは、ほとんどの日が家族全員でご飯を食べていたので、それが当たり前だと思っていましたが、今では、お父さんがいない日が多く、1人少なくなった食たくはとてもさびしいです。1人少なくなっただけで、こんなにご飯の味もかわるのかとおどろきもあります。

だけど、反対にお父さんが帰ってきて、家族全員がそろって食べるご飯は、お父さんがいない時よりもとてもおいしくなります。そして、いつもは1人で食べるが多くなったお父さんも、とてもうれしそうです。お母さんが作ってくれるご飯は、もちろんおいしいけれど、家族全員がそろって食べるということが、ご飯が一番おいしくなる魔法のスパイスなのではないかと思いました。

お父さんとはなればなれになってみて、家族全員がそろうことが当たり前ではないことに気が付きました。お父さんは、仕事の都合だけれど、ぼくだって病気になったりけがをしたりして入院するようなことになるかもしれません。お母さんだって、妹だって一しょです。家族そろって「いただきます。」が言えるように、ぼくは、これからもっと健こうに気をつけたいと思いました。そして、お父さんの単身ふにんがおわって、また前のように家族みんなでご飯が食べられるようになる日が早く来ればいいなと思います。家族がそろって、いいな。

入選

家族と私の役割

広島市立高須小学校

5年 中 井 美咲希

6月のある日、とつぜん、三重県に住んでいるおばあちゃんが「大動脈解離」という重い病気で入院しました。

お母さんは
「すぐにでも三重県に行きたい。」
と言ったので、私は、よく考えずに、
「いいよ。」
と返事をしました。

でも本当にお母さんがおばあちゃんの所へお見舞いに行くと、そのまましばらく帰ってこなかったら、食事やせんたくなどいつもお母さんがしてくれている仕事は、私とお父さんでしなくてはなりません。

お母さんから皿の洗い方や片付け、洗たくものの干し方などを教えてもらいました。教えてもらって何日かしても、なかなか、物の場所や洗い方などを覚えられませんでした。全部覚えているお母さんはすごいと思いました。

結局、おばあちゃんの病院の都合もあり、お母さんは三重県には行きませんでした。私はほんとはあつたがいつもあたり前に思っている生活も、家族が病気になってしまったら食事や洗たくなども困ったことになるのだなど、家族の中にも生活を支えていく役割があることに改めて気づきました。私も、もう5年生なので、家のこともお母さんに習ってできるようになりたいと思います。

私は、おばあちゃんにはげましの手紙を毎週書きました。おばあちゃんが少しでも元気になってくれたらいいと思っていっしょうけんめい書きました。内容は、学校での出来事で面白かったことや、楽しいキャラクターの絵手紙です。おばあちゃんは喜んで、病院のベッドのまぐらの所に私の絵手紙をはってくれていたそうです。おばあちゃんから、「うれしかったよ」とメールをもらって、私もうれしくなりました。これも少しだけど、今の私にできる役割なのかもしれないと思いました。

やっとおばあちゃんがたいいんできました。どんなにまちどおしかったことでしょう。周りの人も本人も、みんなで喜びました。たいいんしても、まだこしがいたかったり、いろいろあるので、夏休みにおばあちゃんの家に行った時には、私も手伝いたいと思うようになりました。

この出来事を通して、改めて家族は大事だと思いました。ふだんは一緒にいて、あたりまえのようにくらしているけれど、おたがい協力して、支えあっているのだと気づきました。私もお母さんやおばあちゃんのお手伝いをしながら、私のできる役割を大きく広げていきたいです。

広島市立高須小学校

6年 後藤 すず

みなさんは、家族と休日をどのようなことをして過ごしていますか。

「親と子どもたちがよく一緒にすること」という調査（※1）によると、勉強を一緒にする親子は、全体の7から8割で、スポーツを一緒にする親子は、2割となっていました。また、旅行やハイキングや魚つりを一緒にする親子は4割となり、家族会議を開いて話し合う親子は、2割強でした。特になにもしない親子は、1割弱となっています。他にも、スポーツを一緒にする親子や、家族会議を開いて話し合う家族は、5年間で割合が大きく上昇していることが、調査資料から読みとれます。

私はこの結果を見て、家族と積極的に何か一緒にしようと思う家族が増えてきているのだと思いました。このように家族と一緒に何かに取り組むことがあると、きっと絆も深まり、今まで以上にすてきな家族になれると思います。

私は特に、スポーツを一緒にしている家族が増えていることに注目しました。

私も家族でヨットというスポーツをしています。父が大学生の時にヨットに乗っている写真を見てあこがれたので、4年生から習い始めました。3歳下の妹も私の取り組みを見て興味をもち、ヨットを習い始めたので、今は、父、母、妹、私の家族4人で休日を過ごすようになりました。

休日は、朝早くから家族でヨットハーバに行きます。午前中は、お父さんたちがコーチをしてくれる中、練習をしています。午後からもまたヨットに乗り、一日中家族4人で過ごしています。

ヨットに乗るようになってから、ふだんは知ることのできない家族のすごさや、家族で協力したり、助け合ったりすることの大切さを深く知ることができたと思います。いつもは、働いていたり、塾に行っていたりしていて、家族4人でしっかりと話すこともできません。けれども、ヨットに乗りに行くと、海の上だけではなく、帰りの車の中でも、今日の反省や1週間で楽しかったことなどを話してもり上がります。だから、私はヨットに乗りに行くと、家族の輪が少しずつだけ毎週毎週確実に深まっていると思います。また、家族の絆の輪が深まるとともに、海に対しての「ありがとう」という感謝の気持ちも高まってくると思います。なぜなら、私たちの絆の輪を作ってくれているからです。

しかし、家族の絆を目で見ることはできません。それでも、絆を確かめることができるのは、大会に出た時だと思います。もし、あまり力を出すことができず、満足できない順位になって落ちこんでいたら、家族がはげましてくれたり、アドバイスをしてくれたりします。逆に力を出すことができ、満足のいく順位になれば、自分も大会に出たかのようにいっしょに喜んでくれるからです。

これからは、家族といる時間を大切に、今まで以上に絆を深めていきたいです。そして、家族がいるというありがたさを忘れないようにしたいです。

（※1）内閣府「平成27年版 子供・若者白書」より

入選

蜂対策本部発足！！

熊野町立熊野第一小学校

6年 神 鳥 友 里

「キャー，助けて。」

と顔色を変えて，お母さんが玄関に入って来ました。何事かと思って聞いてみると，花だんに水をまいていたら，小さな蜂が何十匹と飛んで出て来たと言うのです。私と妹で恐る恐る庭を見に行ったら，お母さんの言う通りたくさんの蜂が飛び回っていました。まずは，私と母，妹で蜂対策本部を立ち上げました。誰が退治するのか，なかなか決まりませんでした。夕方の出来事だったので，お父さんが仕事から帰ってくるのを待とうという事にしました。お父さんが帰って来て，蜂の事を話しました。庭に出て，様子を見に行ってくれたのですが，蜂の姿が見えなくなっていました。もしかしたら，外が少し暗くなっていたせいか，蜂も家に帰ったのではないかという結論になりました。

一旦，家に入り4人で家族会議です。外が明るい時間帯にもう一度探しに行くことにします。その時に，何を持って退治するかも話合いました。隊長はもちろんお父さんです。なぜかお父さんはいつもより張り切って楽しそうでした。私達は蜂にさされたらいけないので長そで長ズボンを用意して，帽子をかぶりました。お父さんは電気が流れるラケットと空気銃を用意していました。

お父さんはいつもお昼を食べに帰って来ます。明るい時間に退治すると決めていたので私達は長そで長ズボン，帽子をかぶりスタンバイしていました。お母さんは怖いと言いながらも手にはビデオを持っていたのでおかしかったです。

お父さんが帰って来ました。隊長のおでましです。右手に空気銃，左手にラケットを持って出動です。今日は木の周りを2，3匹蜂が飛んで出てきました。隊長が戦ってくれています。その姿をお母さんが遠くからビデオをとっています。私と妹は隊長に木や花に止まっている蜂の場所を教える係です。私達の声に合わせてき敏に動くお父さんがかっこよく見えました。

しばらくしていると，隊長が何か手に持って私達の方へゆっくりと歩いてきました。それは，直径10センチ位の蜂の巣がついた枝でした。昨日も巣があるのでは？と探したのですが見当たりませんでした。見えにくい所に巣を作っていたみたいです。蜂もえらいなと感心しました。

これで，隊長の任務完了です。いつものお父さんに戻りお昼ごはんを食べています。家族みんなが力を合わせて解決できた事が嬉しかったです。蜂は怖いなと思ったけど，素敵な夏の思い出に変わりました。

また，何か出来事があれば，家族みんなで話し合い，分担し解決していければいいなと思いました。

東広島市立西条中学校

1年 松丸 拓馬

「お父さん、今日帰って来る？宿直？」

と、いつものように会社に行く父に僕は聞く。父は10日に1度の割合で仕事で宿直がある。帰って来ない日があるのでさびしい。でも、父が安心して仕事に行けるように、そして、僕達も宿直の間、家族で団結して安全で楽しく過ごせるようにルールを決めている。

僕の家族は、父、母、僕、弟の4人家族だ。1週間前にも、父は宿直だったので、いつも通り3人でルールを守った。まず、僕達は、玄関の鍵を閉めているか、窓が開いていないかをしっかり確認する。特に玄関は防犯のために二重ロックをしているか、自動でつく照明が継続でつきっぱなしになっていないかをチェックする。そして、テレビやパソコンなどの電化製品の電源を落とすなどの普段は、父がやるような仕事を手分けしてやっている。これが1つ目のルールだ。僕達は父がいない分、家の事をしっかりやらなければならない。そのためか、父は宿直の日の朝に必ず僕に言ってくれる言葉がある。

「拓馬、わしがおらん時は、お前が大黒柱じゃけえ頼りにしとるけんのう。この家、しっかり守ってくれや。拓馬ならできる。」

この言葉を聞くと、僕が、母や弟を守るためにがんばろう、父の代わりになって僕が、この家を安全に保とう、というやる気や勇気がわいてくる。父の僕への期待も裏切りたくない。そう思い、僕ができるだけ先頭に立ってルールを守っている。

僕の家での「家族のルール」では、戸締りも大事だけど、僕にとってはもっと大事なルールがある。それは、寝る前に会社にいる父に電話で今日あった出来事を伝えて、おやすみなさいを言うことだ。父と話すことで安心して眠れるし、父にも僕達家族のニュースや体調を伝えられるからだ。父が宿直の時、僕と母、弟が一番不安に思う時間は、夜寝る時だから、父と話したらすぐに3人で寝る。

それに、もっとうれしいのは、父が こういう僕達を見て、仕事をがんばってくれていることだ。僕達が寝ている間、父は仕事をしてしんどいはずだ。それなのに、電話で話すと父はいつも大きな元気な声で、僕と話す。「お父さんは、すごいなあ」と思っていたら、母が、

「違うんよ。お父さんはすごいタフだけどあんたががんばるとる姿がはげみになっとるんよ。」

と、言って教えてくれた。その時僕も父の力になれているんだと分かって嬉しかった。

僕が小学校の低学年の時は、お父さんの帰って来ない日があることを不満に思っていた。

「どうして、うちだけ帰って来ない日があるの？」

と、何度も父母に聞いて困らせた事がある。でも、今は、父が仕事をがんばってくれているからこそ元気に毎日生活できていると理解できる。それはなぜかというと、父が電話して、僕にさびしい思いをさせないように気遣いをしてくれたことと何かあった時も母と弟がとなりにいてくれて家族のルールを団結して守ってきたからだと思う。

家族とは、はなれている時もお互いを大切に思っているし、気持ちはつながっているんだなと感じた。家族の中でルールや役割があると、自分も家族の一員だとお互い実感できて、助け合える。父が宿直であっても家族が一丸となれるので、「家族っていいな」と思う。今、僕はとても幸せなので、家族のきずなをこれからも大切にしていきたい。

廿日市市立阿品台中学校

1年 大村 航平

突然やってきた文也の病気とお母さんのいない生活。僕は、これからどうなるのか不安でたまらなかつたことを、今でも覚えている。

僕が小学6年生の時、弟の文也が入院しました。急に顔を真っ青にして背中が痛いと言いきだし、そのうち1人では歩けなくなってしまいました。すぐに病院で検査を受けると、背中に腫瘍が見つかり、神経を圧迫しているために歩けなくなっていることが分かりました。

その夜、緊急手術を受け背中の中を腫瘍を取り除きました。手術は無事成功。僕達兄弟は、ホッと安心しました。

しかし、その後の検査で、体の数ヶ所に腫瘍が見つかり抗がん剤治療のため、半年間入院することが決まりました。病名は、小児癌。僕は、頭の中が真っ白になりました。

次の日の夜、お父さんが

「文君は、病気と戦うために辛い治療を受けるよ。お母さんは、文君が病気に勝てるよう24時間病院で看病をするから、家には帰って来られなくなるよ。みんなで協力してお母さんが文君の側に居られるようにしてあげようね。」

と、目を真っ赤にして話をしてくれました。

僕達は、涙が止まりませんでした。とても心配で、とても不安でたまりません。

文也の事、お母さんの事、お姉ちゃんの事、弟の事、お父さんの事、自分の事。何をどうしたらいいのか分からないまま、4人での生活がスタートしたのです。残った4人で役割を決めました。

朝食はお父さんが作り、僕達は洗濯物を干したり皿洗いをして学校へ行きました。夕食はお父さんとお姉ちゃんが作ってくれました。今まで、お母さんがしてくれていたことは全部僕達で少しずつやりました。近所の方々も、ご飯やおやつを作ってくださいました。とても美味しかったし、心が温まりました。毎日が不安で一杯でしたが、感謝の気持ちも一杯でした。

1ヶ月に1、2回は、病院へ連れて行ってもらいました。お母さんに会うとうれしくて涙が止まりません。お姉ちゃんも弟も同じです。ただ、感染防止のため、免疫力が下がっている文也を遠くから見守る事しかできず、さみしい気持ち、かわいそうな気持ち、早く元気になってほしい気持ち、色々な気持ちが僕の心の中を出たり入ったりしていました。頭の中も心の中も言葉にならない気持ちがあふれていました。

あと1週間、もう1週間、もう1ヶ月。僕達は、辛さやさみしさを乗り越えられるよう、家族みんなのために家族みんなのちからを合わせ頑張りました。そして、やっとの思いで半年が経ち、ついに弟は病気に勝ち無事退院することができたのです。

家族6人が揃っている事が、当たり前だと思っていた半年前とは違い、家族6人が揃って暮らせる事がこんなにもありがたい事、嬉しい事だということ、僕達は感じられるようになっていました。僕達は、辛い思いをしたけれど、家族の絆の大切さ、命の尊さ、協力し合うことの大切さを学ぶことができました。

今は1日1日を大切に過ごし、僕達の生活を支えて下さった近所の方々や見守り隊の方々への感謝を忘れず、家族や友達、地域の方々の役に立てる人間に成長できるように努力を続けたいと考えています。

入選

大切な言葉

坂町立坂中学校

1年 西川 瑠菜

家族から、「ありがとう。」と言われると、とてもうれしくなります。

だけど、この言葉を私は素直に言うことができません。もちろん、感謝しているのですが、いざ言おうとすると、照れくさくってとても小さな声になってしまいます。

友達に、何かを手伝ってもらったりした時は、「ありがとう。」と普通に言えるのに、家族の前だとなぜか言えないのです。

そんな私を変えるきっかけになったのは、家族で登った山登りでした。

小学6年生の夏休みに、家族で大山へ山登りに行きました。大山は、中国地方では一番高い山なので、前の日からとてもきんちょうしていました。私は、運動が苦手なので登れるかとても不安でした。

その日は、とても暑くて、登っていると汗がダラダラと流れてきました。頭もクラクラして、とてもしんどかったです。

家族のみんなも、もうげんかいという顔をしていました。そんな時、父が「もう少しだよ。みんながんばれ！」

とはげましてくれました。その声を聞くと、なんだか元気がでてきました。なので私も、妹に向かって、「がんばれ！」と言いました。

妹は、少しだけ笑ってまた登りはじめました。その小さな笑顔を見ると、またまた元気がでてきて、残りの道のりも無事登ることができました。

頂上についたら、達成感で胸がいっぱいになりました。そして、父に「お父さんのおかげで、無事登れたんだよ。本当にありがとう。」

と言うと、照れくさそうに笑っていました。

今回のことから、素直に自分の気持ちを言うと、自分もみんなもうれしい気持ちになることが分かりました。

また、だれかをはげますと、自分もうれしくなることが分かりました。

なので私は、だれかを笑顔にできる「ありがとう。」という言葉がたくさん使っていきたいなと思います。

もちろん、この言葉を言うのは少し照れくさいですが、勇気を出して言いたいなと思います。

家族に、日ごろから感じている感謝の気持ちを、素直に言うことも、小さなおん返しであると私は思います。

そうして、家族の中にもっともっとたくさんの笑顔があふれたら、私はとてもうれしいです。「ありがとう。」たった1つのこの言葉が、心と心を結ぶとても大切な役割をしているということをつまでもおぼえていたいと思います。

そうすれば、家族や友達などに、笑顔をあふれさせることができると思うからです。

入選

我が道を歩いた祖父

広島市立東原中学校

2年 柳川 知香

私の祖父はとてもワガママですぐ怒りだす。お酒が大好きで祖母には嫌な事があればぐだぐだと文句を言ううるさい人だ。正直言うとめんどくさいし、必要以上近よらなかった。だからあまり話さないし話しかけられることもなかった。

そんな祖父はある日、体調が悪くて病院へ行った。診断の結果は「ガン」だった。食道ガンだった。実は、前もガンになっていたので治るだろうと思っていたのだが、放射線治療をしてもガンは取り除くことはできず病状は悪化するばかり。病院へ入院させようとしたが本人は家で最後を向かえたい、という思いで自宅治療をすることになった。お見舞いに家に行くことでっぶりとしたお腹はへこみやせこけていく祖父がいた。始めは

「いつ死んでもええわ。」

と笑いながら言っていたが、だんだん口数が見舞いに行くたびに少なくなっていった。私はそれを見るのがつらかった。結局入院するのだが自宅治療中で最後に家に行った時、調子はどうか、何か食べれるかと質問して話した後にほそっと祖父は死にたくない、と言って泣いていた。強気な所しか見たことがなかった私はとても驚いた。やっぱりみんな死は怖いんだと祖父を見て思った。点滴が入らなくなり入院することになった。他の所から点滴をする手術をしてその点滴で体調が少し良くなったら退院する予定だった。退院する当日、ベッドから落ちて頭を打って意識不明になった。声を聞きとるまで回復し、手も上げれるようになったころ誕生日を祖父がむかえた。母はお義父さん誕生日おめでとう、と言うと腕をつかんで涙をうかべていたそうだ。そして数日後、祖父は亡くなった。お葬式の時、父は、「生まれてきただけでもラッキーだったんだ。たくさんの人にわたしは感謝しとる。」と祖父が話していたことを教えてくれた。あんなにとやかく人の事について厳しい祖父から「感謝」という言葉を聞いてまた驚いた。我が道を歩いて人の方はあまり見てないのかと思っていたからだ。父から話を聞くと、実はけっこう人との関わりが多く、祖父にお世話になっていて逆に感謝していた人がいたことを知った。その話を聞いてとても私はうれしい気持ちになった。

私もこの話を聞いて人に感謝し、感謝されるような人間になりたいと思った。そして、祖父に、「成長したなあ。」と言われるように日々がんばりたいし、努力していこうと思う。祖父から教わったことを忘れずに自分の人生のプラスにしていきたい。

入選

私たちだけじゃない

呉市立片山中学校

2年 井上 莉花

「おばあちゃん。」

幼い頃、私は祖母が家に来てくれると、家族の誰よりも先に気づき、窓から祖母へ手を振っていた。祖母のことが大好きで、たくさん遊んだり、たくさんおしゃべりもした。

こんな祖母との日々がずっと続いていくと思っていた。が、数年前から祖母の「物忘れ」が激しくなってきた。鍵をどこに置いたのかや自分のバイクがどれか忘れ、今話した事も忘れて話が進みにくくなっていった。私はその祖母の変化に戸惑い、どう接していいのかわからず距離をおくようになった。

ある日、祖母に母が母の誕生日を聞くと、全然違う日を言われてしまった。母は「違うよー。もう覚えていないかー。」

と笑ったが、どこか寂しそうな目をしていた。

昔から私が習っているエレクトーンについて祖母と話していると、昔から発表会には必ず来ていたはずなのに、

「へえー。いつからそれ、習いよるの？」と聞かれ、悲しみを全ては隠せなかった。

こんな風にして皆を悲しませる病気は許せない。そして病気になった祖母も受け入れてあげることができなかった。そんな時、あの事件は起こった。

ある日の夕方、いつもの待ち合わせ場所で合流し、私は母と車で、祖母は昔から乗っているバイクで祖父母の家へ向かった。だいたい母の車の前後に祖母はいたのだが、気付いた時には姿が見えなくなっていた。

「バイクじゃけん先に着いとるんかねえ。」

と母と一緒に祖父母の家に行ったのだが、まだ祖母は着いていなかった。待ち合わせ場所からはそんなに長い道のりでもないのだが、いくら待ってもバイクの音はしなかった。母は近所を探しに行き、私は母からの連絡を待った。

しばらくして、電話が鳴った。その電話は近所の知り合いのお店からで、どうやら暗くなったために祖母が道に迷ってしまったところを見つけていただいたらしい。私は急いで母に連絡し、母と祖母は一緒に帰宅した。

「ただいま。」

声は明るかったが、祖母の手に触れると、冷たく、小刻みに振えていた。その手は祖母がどれだけ怖い思いをしたのかを物語っていた。

その時私はやっと気がついた。病気によって辛い思いをしているのは、私たちだけではない。本当に辛い思いをしているのは祖母、本人なんだということ、そんな祖母を私たちが守ってあげなければならないということ。

その日から私は変わった。私は面倒臭そうに接するのではなく、優しく、楽しそうに笑顔で接することを心がけるようになった。

こうすることで、祖母に楽しく過ごしてもらうことを第一に考えれるようになった。今の私は、幼い頃以上に祖母を大切に思っていてあげることができているだろう。

小学6年生の時、僕の反抗期が始まった。特に何かやなことがあったわけでもないのに、親の言う事に反発するようになり、よくむかつくようになった。

ある日、僕が友達と遊んでいた時、母に注意されたことがあった。その時僕は、「うるせえな。」と暴言をはいた。今思うとなぜあの時あんなことを言ったのか分からない。遊びに夢中になってつい言ってしまったのかもしれない。どんな理由にしろ言ってはいけないことを言った。しかし、その時の僕は何とも思わなかった。

その日から普段の生活にいつもと違う異和感を感じた。母が全く僕にかまわなくなったのだ。最初のうちは、「何かあったのかな。」と不思議に思うぐらいだったが、だんだん僕に対してだけ冷たい態度をとっていることに気付いた。その時はもううすうす「あの時のことかな。」と感づいていた。だが、なかなか母と仲直りする気になれなかった。その日の夜、父に

「何で母さんが怒っているか分かるか？」

と聞かれた。分かっていたが、父に言う気になれなかった。いけないと分かっていた事なのに、自分の悪さを認められなかった。しかし、それでもやっぱりこのまま終わるのはいやだった。このまま終われば一生母と仲良く過ごせない。一生心にいやなものが残ってしまう。そう思ったのだ。そして、勇気をふり絞って母の所に行き、

「この前はごめんなさい。」

と謝った。すぐに涙がこみ上げてきた。謝るまでに数日経ってしまったし、たった一言しか出なくて許してもらえるか不安だった。そんな僕でも母は、

「母さんすごく悲しかったんだよ。母さんは周のこと大好きなんだから、もうあんなことはやめてね。」

と優しく許してくれた。僕は涙が止まらなかった。初めて母の気持ちが心に伝わったのかもしれない。母が悲しんでいるとは思わなかった。僕がいけなかった。と深く反省した。

それからは、家族みんな仲良く過ごすことができた。僕の反抗期は静かに去っていったように思う。今でも覚えているが、僕は反抗期の間も親のことがきらいだったわけではない。ただ甘えただけなのかもしれない。自分は大変だからといらいらを親に向けていたのかもしれない。でもそんなことはなかった。親だって悲しいことがあったり、つらいことがあったりする。そういう自分以外のことも考えるようになってからは、親とたまに口げんかをして、自分中心に考えないようにして二度と同じことはくり返さなかった。

反抗期では親をたくさん困らせてしまうが、僕は反抗期はあっても良いと思う。反抗期をこえたからこそ分かる親を思う気持ちなどがある。それでも僕は兄弟や親とのけんかが多いが、正直僕はいつでも家族が大好きだ。

広島市立牛田中学校

3年 嘉藤寛太

後回しにせず早くやりなさい。いつも自分が両親から口うるさく言い聞かされている言葉だ。自分は、この言葉を聞くと何かと言いつけ、結局後回しにしてきた。小さい頃から、この言葉は大嫌いだった。

しかし、その考えがおかしいと気付いた出来事があった。それは小学校6年生のとき、自分は野球をやっている、練習が終わると道具の掃除をしなければならなかった。その日は特別疲れていて、とても眠かった。だから掃除などをせず、先に寝てしまった。そして翌朝目が覚めると、何もかもが汚いままになっていた。当然、急いで掃除をしようとしたが、時すでに遅し。自分は、汚れたままの練習着を着て、汚れたままの道具で、その日練習した。

帰ってから、何でこうなってしまったのかを考えているうちに、1つの答えが出た。それは、「今まで何もかも後回しにしていた自分が悪い」ということだった。両親から散々注意されていたのに、結局自分はできていなかったということに自分自身、情けなく思った。同時に、両親が、この言葉を自分に何回も何回も、言ってきたことの意味がようやく分かった。両親は、自分の将来のために言ってくれていることが分かり、感謝の気持ちと今まで全然出来ていなかったことに対する、罪悪感が芽生えてきた。そこで、夕食の席で両親に謝った。すると、両親は、そのことに気付いてくれて、本当にうれしいと言ってくれ、これからがんばれとエールも言ってくれた。その言葉のおかげで、胸の中に広がっていた罪悪感はきれいに無くなり、新たに、もう二度と同じことを繰り返さないようにしようという新たな意思が胸の奥に深く深く刻まれた。

この瞬間は、1人の人間として、一皮むけた瞬間だったと思う。

今、中学3年生になっても、野球は続けている。それに加え、塾や宿題などもあり、とても忙しい日々だ。当然、やらなければならない事もとても増えた。だが、あの日以来、自分は両親にあの言葉を言わせたことは一度もない。どうしてもゲームがしたいという誘惑が来ても、やるべき事をやってからやるようにしている。

この、当たり前の事に気付かせてくれた両親には、感謝の気持ちでいっぱいだ。これに限らず、両親から学んだものはまだまだたくさんある。自分はこれからも、両親から学んだことを自分自身の人生に活かしていきたいと思っている。そして、これからも人生の先輩であり、そして、自分の最大の理解者である、両親についていこうと思った。

入選

大好きな家族のみんなとともに

広島市立楠那中学校

3年 松本千春

私は、つい最近まで家族に自分のイライラをぶつけ、自分が自分ではないみたいだった。

それは中学1年生の時の話だ。私の家族は父、母そして3つ年の離れた兄と2つ年の離れた弟の5人家族である。幼い頃は仲が良く自慢の家族を持ってとても楽しかった。だが、私は中学に上がると、慣れない部活、上下関係や友人とのトラブルにおける人間関係に頭を悩まされてばかりだった。自分がやりたくて入った部活も先輩方となじめず、時々理由を付けてさぼったりした。小学校にはなかった提出物で私は何度も先生に注意された。そんな先生さえも、私にとって「うるさい人」としか思えなかった。私からは笑顔が消え不機嫌でいることが多くなっていった。そんな自分が私は大嫌いだった。しかし自分でもそれをどうにかすることはできなかった。

家に帰っても、自分の居場所がないように感じ、自分の部屋にこもる毎日。両親からの注意も無視した。どうしてそんなに家族に向け怒鳴るのか自分でも自分が分からなかった。そして私は本来の自分を見失いかけていた。

そんな時母や父は何も怒ったりなんてしなかった。ただただ私を受け止めてくれた。そんな父や母にも「何で何も言わないの。どうせ2人とも私のこと嫌いなんでしょ。」と私は怒鳴りつけた。すると母は静かに「千春が父さんや母さんにイライラをぶつけて気が済むならいくらでもぶつけていい。どんなことがあってもあなたを嫌いになることはできない。」と言った。その言葉をきいたとたん、私は涙が止まらなかった。そして、母は何も言わず抱きしめてくれた。

私は、自分が距離をおき、自分だけが変ってしまっていることに気づいた。居場所がなかったのではない。私自身がみんなを一方的に避けていたのだ。周りは何も変わってなんていなかった…。なのに自分が周りを傷つけていた。私は自分をやっと取り戻せたのだ。それと同時に、罪悪感から涙がまた止まらなかった。家族に「今までたくさん傷つけてごめんなさい。」と謝るとみんなは笑って「なにいつてんのさ。もういいよ。」と明るく私を許してくれた。私は明るくて笑顔がいっぱいな家族が大好きだったことを思い出した。

私は今、家族と当たり前のように笑ってすごしている。あの日母が言った言葉は、生涯忘れないだろう。感謝してもしきれない家族は私にとってかけがえのない存在である。もし、また何があっても私は乗り越えていけるはずだ。元気で明るい私の大好きな家族のみんながいるから！

入選

介護士の母から学んだこと

東広島市立磯松中学校

3年 常 森 翔 聖

僕のお母さんは、見た目は派手で若ぶりの格好をしているけれど、実は30代後半です。周りの人や友達からは「お母さんは若くて優しいね。」とよく言われますが、全くそんなことはなく、特に挨拶や礼儀などには非常に口うるさいお母さんです。

目上の人に会った時には「ちゃんと挨拶をなさい。」、悪いことをした時には「ちゃんとごめんなさいを言いなさい。」などなど。挨拶や礼儀というのは当たり前のことではあるけれど、なかなか出来なかった僕は怒られ続けてきました。お陰で今では普通に出来るようになったと思います。

その他に、食事の時にも「茶碗を持ちなさい。」「左手を出しなさい。」とよく注意をされます。今、反抗期の真っ只中にいる僕は、ある日、「左手は。」と注意された時に「どっか行った。」とか「無くなった。」と反抗した態度を取りました。すると、すかさずお母さんはこう言いました。「手の無い人はどうやって食べるん。お母さんが仕事でやりようのように食べさせてあげようか。」と。

僕のお母さんは介護士をしています。介護士の仕事は、手足の不自由なお年寄りや障害を持った人達の身の回りのお手伝いをすることです。毎日、そういった人達をお風呂に入れたり、ご飯を食べさせたり、大便や小便のおむつを替えたりするそうです。大変な仕事だけに、今現在、介護士の人数が不足しているようです。

その時、お母さんは続けてこう言いました。「お年寄りや若い人でも、手足が不自由な人や身体に障害がある人は世の中にたくさんいる。みんな年をとれば物事を忘れてたり思い出せなくなったりする。必ず誰もが衰えていくし、中にはだんだん手足が自分の思うように動かせなくなって介護が必要になってくる人だっている。ましてや障害を持っている人の中には、生まれながらにして手足が不自由な人だっている。でも、それは誰も好きでなったわけではないし、その人達も毎日在必死で生きている。だから、軽はずみでそんなことを言ってはダメ。何の不自由もなく、今、お母さんとうこうして一緒に暮らせることが幸せなんよ。」と。

僕は、そのお母さんの言葉を聞いて思いました。僕が普段生活しているごくごく普通のことが、当たり前のことが当たり前でできることが、実は一番の幸せなんだと。それ以来僕は食事の時に反抗的な態度を取るのをやめました。

お母さんが介護の仕事をしているからこそ色々な話を聞くことができます。また、お母さんは大変な仕事をしているからこそ人の痛みや気持ちがわかるのだと思います。そんなお母さんの子供であることを僕は誇りに思います。

お母さんのように、将来、介護士にはなれないかも知れないけれども、人の役に立つ仕事に就きたいと思っています。

特選

東広島市立寺西小学校

5年 塩竹 七海人



おいしいチャーハン出来たよ

入選

広島市立吉島小学校

1年 津川 ほの香



お父さんが休みの日は家族みんなで夕食嬉しいな

庄原市立口北小学校

1年 若林 朋歩



畑でとれた野菜を使ってピザを作りました

広島市立宇品小学校

4年 神垣 天翔



体と言葉が不自由なおじいちゃんと勝負！

広島市立吉島東小学校

6年 土井 岳人



家族でお墓参りに行きました

東広島市立入野小学校

6年 迫田 大和



家族でキャンプに行きバーベキューをしたよ

～審査会から～

今年度も、たくさんの作品を応募いただき、誠にありがとうございました。

図画については、中学生の応募が非常に少なく残念ではありますが、全体として、生き生きとした作品に出会えたと思います。

作文については、小学生の応募が今年の2倍以上もあり、関心の高さに驚きと喜びを感じております。

多くは日常生活での心温まる出来事を取り上げた作品でしたが、本年度は、これまでにはあまり見られなかった、家族間の課題を取り上げ、そこから家族の在り方や大切さを前向きに訴える作品がいくつかありました。

審査会では、子どもの家庭的な事情等を描いた作品が公になることを懸念しましたが、そこに込められた子どもの素直な思い、家族に対する愛情、前向きに生きようとする力強さを感じ、賞に選定したものがあります。本来であればそういった作品も含めて読んでいただき、これまで以上に子どもと真摯に向き合い、家庭の在り方について考えていただきたいところではありますが、本人や家族の意向により作品集には掲載していない作品が数点あることをご了承ください。

これらの作品を通じて、多くの方々に、「家庭の日」について、いろいろな視点から考えていただければ幸いです。



平成 27 年度「家庭の日」作文・図画募集要項

- 趣 旨 健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。
青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。
この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、各学年5名以内で応募してください。
なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 応募方法
- 作 文
- ・400字詰め原稿用紙3枚程度とします。
 - ・縦書きとし、はっきりと書いてください。
 - ・題の次に、学校名・学年・名前（ふりがな）を記入してください。
- 図 画
- ・作品は4つ切りの画用紙とします。
 - ・画材は自由です。（クレパス、水彩絵の具等）
 - ・裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。
 - ・作品のコメントも忘れずに記載してください。
- 注意事項
- ・一人1点に限ります。
 - ・本人の作品で未発表のものに限ります。
 - ・提出された作品は、返却しません。
 - ・企業名や商号の入った作品は対象外となります。
 - ・作成指導に当たっては、作品に直接手を加えないようにお願いします。
 - ・図画は送付時に丸めないでください。
- 応募締切 平成27年9月10日（木）
- 送 付 先 〒730－8511 広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内
公益社団法人青少年育成広島県民会議
TEL082－513－2742 ・ FAX082－511－2173
- 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 後 援 広島県・広島県教育委員会
- 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、（敬称略、順不同）
- 審査・発表
- (1) 応募作品は、審査委員会を設けて厳正に審査し、入賞作品を決定します。
 - (2) 特選者には、青少年育成県民運動推進大会（10月31日開催）において、広島県知事から賞状及び賞品を授与し、併せて副賞として5万円の旅行券を贈ります。
 - (3) 入選者には、賞状及び賞品を贈ります。
 - (4) 応募者全員に、参加賞をおくります。参加校は必ず応募者の控えをお持ちください。
 - (5) 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や情報誌など広く活用させていただきます。

審査員名簿及び審査要領

●作文の部審査員

藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
和田 晋 広島市公立中学校長会会長・広島県中学校教育研究会国語部会会長
藤原 凡人 前府中町教育委員会委員長
倉迫 昭宏 広島県環境県民局県民活動課長
黒小 大介 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事

●作文の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 3 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 上位 20 作品程度を選定する。

2 審査の方法

(1) 事前審査

- ・小学校低・高学年, 中学生の部をとおして, 「家庭の日」の理解度, 感銘度, 論題にそつた論旨, 論点の整理, 表現力, 文の構成等を審査する。
- ・評点は 10 段階評価とする。
- ・特選を 10 点満点とし, 小・中学生をとおして, 特選 3 作品を選定する。
- ・入選は上位 20 作品程度を選定する。
- ・学年ごとに平均して選定しなくても良い。

(2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し, 相互調整して特選, 入選を選定する。

●図画の部審査員

濱田 昭法 元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長
倉迫 昭宏 広島県環境県民局県民活動課長
藤崎 綾 広島県立美術館主任学芸員
木村 彰 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事

●図画の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 1 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 5 作品

2 審査の方法

- (1) 作品ごとに, 表現力, 構成力, 家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ, 審査員は 1 学年ごとに, 5 点ぐらい選定する。なお, 各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが, できれば小学校(低・中・高学年), 中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後, (2)で選んだ作品を全部並べ, その中から特選 1 点, 入選 5 点を協議により選定する。

平成27年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

小学校の部		作 文								図 画								応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	作参加数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	図参加人数		
1	広島市立幟町小学校	1	1		1	3	1	7	7	2	1	2		2	1	8	8	15	15
2	広島市立吉島小学校							0	0	1						1	1	1	1
3	広島市立吉島東小学校			1				1	1		1			1	1	3	3	4	4
4	広島市立温品小学校	1						1	2							0	0	2	2
5	広島市立牛田小学校	3	3					1	7	3	5	2		1	1	12	12	19	19
6	広島市立宇品小学校	1	2	2	2	2	1	10	10	3	10	4	2	1	2	22	22	32	32
7	広島市立翠町小学校			2				2	2	1	2					3	3	5	5
8	広島市立高須小学校	1		2			3	3	9	3	1	1	1		2	8	8	17	17
9	広島市立南観音小学校							0	0	5	2					7	7	7	7
10	広島市立山田小学校	1						3	4	1	2		1			4	4	8	8
11	広島市立緑井小学校		1	3	3	2	1	10	10							0	0	10	10
12	広島市立大町小学校	2	1					3	3	4		2	2		1	9	9	12	12
13	広島市立飯室小学校		1					1	1							0	0	1	1
14	広島市立口田東小学校				2	1		3	3	5	4	5	2		1	17	17	20	20
15	広島市立鈴張小学校							0	0	1		1		1		3	3	3	3
16	広島市立矢野西小学校							5	5							0	0	5	5
17	広島市立石内小学校			2				1	3	3	1					4	4	7	7
18	広島市立彩が丘小学校							1	1							0	0	1	1
19	呉市立宮原小学校		1	1				2	4							0	0	4	4
20	呉市立阿賀小学校		1					1	1							0	0	1	1
21	呉市立蒲刈小学校		1					1	1		1					1	1	2	2
22	呉市立川尻小学校	2	1					3	3							0	0	3	3
23	呉市立昭北小学校	1						1	1							0	0	1	1
24	呉市立坪内小学校			1				1	1		1					1	1	2	2
25	呉市立三坂地小学校			1				1	1			1		2		3	3	4	4
26	呉市立吉浦小学校							0	0					1		1	1	1	1
27	竹原市立大乘小学校			1	2	2		5	5							0	0	5	5
28	竹原市立竹原西小学校	5	5		4	5	2	21	121			1				1	1	22	122
29	竹原市立吉名小学校	4			2	1	2	9	9							0	0	9	9
30	広島大学附属三原小学校	2			3	3		8	8							0	0	8	8
31	三原市立糸崎小学校			5				5	20							0	0	5	20
32	三原市立西小学校	1						1	1							0	0	1	1
33	尾道市立向島中央小学校	5	5	5	1	5	5	26	84	1	1	1	1			4	4	30	88
34	尾道市立百島小学校							2	2							0	0	2	2
35	福山市立御幸小学校		5		4	4	3	16	56	4	2		3	3		12	12	28	68
36	福山市立戸手小学校			2				2	17			5				5	38	7	55
37	府中市立栗生小学校					1		1	1					1		1	1	2	2
38	府中市立南小学校							5	5							0	0	5	5
39	三次市みらさか小学校	1						1	1	5		1			1	7	7	8	8
40	庄原市立口北小学校							0	0	1		1				2	2	2	2
41	庄原市立庄原小学校							0	0	1						1	1	1	1
42	庄原市立高野小学校			2		2		4	4							0	0	4	4
43	庄原市立比和小学校			1				1	1							0	0	1	1
44	庄原市立東城小学校							0	0		1					1	1	1	1
45	東広島市立三ツ城小学校	2		1	5	1		9	12	2	2	1				5	5	14	17
46	東広島市立寺西小学校	1	5	5	5	5	5	26	150	20	6	1	2	2	1	32	32	58	182
47	東広島市立板城西小学校	1			3			4	4							0	0	4	4
48	東広島市立風早小学校				1			1	3		1	1	1			3	5	4	8
49	東広島市立吉川小学校		1	2				3	3		1					1	1	4	4
50	東広島市立郷田小学校							1	1	1						1	1	2	2
51	東広島市立河内西小学校							0	0					1		1	1	1	1
52	東広島市立小谷小学校	2		5	5		2	14	31	5	5	3	5			18	20	32	51
53	東広島市立西条小学校	3	5	5	3	5	5	26	128	5	5	1	3		3	17	41	43	169
54	東広島市立志和堀小学校							0	0		1			1		2	2	2	2
55	東広島市立高屋西小学校	1	1	5	5	4	1	17	17	9	5		3	4	2	23	23	40	40
56	東広島市立中黒瀬小学校	2	1					3	3			1		1		2	2	5	5
57	東広島市立西志和小学校	1		1	1			3	3						2	2	2	5	5
58	東広島市立入野小学校	4	5	5	2	5	1	22	22				1		2	3	3	25	25
59	東広島市立東西条小学校					5		5	5	3	2	1				6	6	11	11
60	東広島市立平岩小学校				3			3	3			1	1			2	2	5	5
61	東広島市立御園宇小学校				1	1		2	2	2	1	1		1		5	5	7	7
62	廿日市市立佐方小学校	1		2				3	3			3				3	3	6	6
63	府中町立府中南小学校							0	0	3	2		1			6	6	6	6
64	海田町立海田南小学校							0	0	3			1			4	4	4	4
65	熊野町立熊野第一小学校		1	1				2	4	1	4	3	1			9	9	13	13
66	熊野町立熊野第三小学校							5	5				1			1	10	6	25
67	熊野町立熊野第四小学校		1	1	1	2	1	6	6	5	5	5	2	1	1	19	85	25	91
68	坂町立横浜小学校		1		1			2	2							0	0	2	2
69	大崎上島町立大崎小学校	1						1	2	2			1			3	3	5	5
70	世羅町立世羅小学校		1	1				2	2	4				1		5	5	7	7
	合 計	50	50	65	60	62	63	350	836	109	75	49	34	26	21	314	450	664	1286

中学校の部		作 文					図 画					応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	計	作・ 参加人数	1年	2年	3年	計	図・ 参加人数		
1	広島市立福木中学校		1		1	1				0	0	1	1
2	広島市立牛田中学校	3	5	5	13	69				0	0	13	69
3	広島市立楠那中学校	3		2	5	5				0	0	5	5
4	広島市立宇品中学校	4	3	4	11	46				0	0	11	46
5	広島市立古田中学校	5	5	5	15	95				0	0	15	95
6	広島学院中学校	2			2	2				0	0	2	2
7	広島市立中広中学校	5	4	2	11	166				0	0	11	166
8	広島市立東原中学校	2	5	5	12	20				0	0	12	20
9	広島市立高取北中学校	5	5		10	10				0	0	10	10
10	広島市立長束中学校	5	6	7	18	18				0	0	18	18
11	広島市立瀬野川東中学校	5	4	5	14	55				0	0	14	55
12	広島市立五日市中学校		4		4	129				0	0	4	129
13	広島市立砂谷中学校	1	2	5	8	8				0	0	8	8
14	広島市立五月が丘中学校	4	1	1	6	6				0	0	6	6
15	呉市立片山中学校	4	5	3	12	36				0	0	12	36
16	呉市立阿賀中学校	1	3	1	5	5				0	0	5	5
17	呉市立蒲刈中学校			1	1	1				0	0	1	1
18	呉市立下蒲刈中学校	1		1	2	3				0	0	2	3
19	呉市立仁方中学校		1	1	2	2				0	0	2	2
20	呉市立宮原中学校	3	1	2	6	6				0	0	6	6
21	呉市立吉浦中学校	2		1	3	3				0	0	3	3
22	呉市立両城中学校		1	1	2	2				0	0	2	2
23	三原市立幸崎中学校	3	2	1	6	55				0	0	6	55
24	三原市立第二中学校	3	1	3	7	7				0	0	7	7
25	三原市立第四中学校		1	2	3	3				0	0	3	3
26	三原市立大和中学校	4	3		7	7				0	0	7	7
27	三原市立宮浦中学校	5	5	5	15	15				0	0	15	15
28	尾道市立栗原中学校	1	4	5	10	10				0	0	10	10
29	尾道市立瀬戸田中学校				0	0	1			1	1	1	1
30	福山市培遠中学校		5		5	36				0	0	5	36
31	庄原市立東城中学校	4		2	6	6				0	0	6	6
32	大竹市立玖波中学校	1	3	3	7	7				0	0	7	7
33	東広島市立磯松中学校	4	4	1	9	16				0	0	9	16
34	東広島市立西条中学校	5	5	3	13	37				0	0	13	37
35	武田中学校		5	1	6	43			1	1	2	7	45
36	東広島市立安芸津中学校	2	5	5	12	17				0	0	12	17
37	東広島市立志和中学校	3	2	1	6	6				0	0	6	6
38	東広島市立中央中学校	2	2	2	6	23				0	0	6	23
39	東広島市立松賀中学校	2	3	1	6	23				0	0	6	23
40	廿日市市立阿品台中学校	3	3	3	9	69				0	0	9	69
41	廿日市市立野坂中学校	3	3	3	9	9				0	0	9	9
42	海田町立海田西中学校	3	3	1	7	18				0	0	7	18
43	坂町立坂中学校	5	2	4	11	13				0	0	11	13
	合 計	108	117	98	323	1108	1	0	1	2	3	325	1111

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

- 1 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

- 1 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

- 1 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

- 1 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

- 1 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

みんなで「あいさつ」してみようや

「あいさつ」されると気持ちええよね。
相手と心がつながるもんね。
ほいじゃけえ、
「おはよう」から始めてみようや。



広島県の
青少年のマスコット
ゆっぴー

11月は全国子ども・若者育成支援強調月間です。

広島県、広島県教育委員会、広島県警察、(公社)青少年育成広島県民会議、市町、市町教育委員会、各青少年育成市区町民会議及び青少年育成関係団体

発行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511

広島市中区基町 10-52 広島県環境県民局県民活動課内

TEL082-513-2742 FAX082-511-2173

URL:<http://www.hiro-payd.or.jp/>